

オリエンテーリングって本当に北欧のスポーツなんですか？

2007年1月2日 東京都青梅市
第23回七福神オリエンテーリング大会

東洋のオリエンテーリング

「オリエンテーリングって本当に北欧生まれのスポーツなんだっけ？」
2007年最初のオリエンテーリングは東京・青梅の七福神巡りフリーポイント0。神仏を巡る行為はどことなくオリエンテーリングに通じるものがある。日本には七福神めぐりや八十八札所めぐり、三十三箇所めぐりなど、霊場を回るスポットが数多くある。

そういえば「オリエンテーリング」という言葉が示す行為そのものも宗教が関わっているし、その言葉が変化した「オリエント」という言葉もまた「東洋」を示す。



競技説明。いつもとは違った競技方法をレクチャーする。

街を疾走 町で失踪

正月に眠っている東京・青梅の朝。青梅駅北側の山へ向かうと、人のけいけい無くなる。穏やかな新春の空の下、約50名ほどの参加者がグランドの一角に集まっていた。参加者は新春のハイカー姿の者から、走りこみ隊のような姿までさまざま。

10:00 一斉スタート。青梅の街に散在する7つのお寺を巡り、その境内にあるコントロールを目指す。

新年のレース初めとして、ただただフラッグを求めて疾走する者。お賽銭を持って初詣し、色紙を求めて七福神の印を集める者。巡る寺で振舞われるお酒や甘酒に溺れ失踪してしまいそうな者。

峠を越え、歩道を走り、多摩川の深谷を渡り、住宅地を疾走する。コース距離は約13km。梅の季節ならもっと素晴らしい景色に違いない。



スタート前。ルートを考える参加者。

もうすぐ四半世紀

この大会は今回で23回目を迎える。しかもコースが毎回同じという普通のオリエンテーリング大会では殆どありえないスタイル。長く続いている秘密はなんだろうか。思うに秘訣は2つある。

一つ目の秘訣は、「正月に七福神」という非常に明快なコンセプト。正月に初詣に行くことは日本人のDNAに刷り込まれている。これが参加へと駆り立てるエネルギーとなっている。

二つ目の秘訣は、「無理をしない運営」であること。市街地の変遷は激しい。このため地図だって10年前とは大きく違おう。地図は昭文社の許可をもらってコピーした市街地図を使用している。地図調査はいらない。市街地でのレースでは信号や駅名が書かれている地図のほうが役立つ。コントロールとなる仏閣周辺があまり詳細に描かれていないのだが、それも運試し。七福神のご加護あれとばかりに飛び込むと目立つ位置にフラッグが待っているのだ。

里のスポーツ、街のレクリエーションとしての地図ナビゲーションがこの大会のコンセプトだ。

OL大会でコースレコード

ひとつ面白いのは、コースレコードなるものがこの大会には存在しているのだ。それは毎年同じコースで大会を行っているから。昨年の自己タイムに比べて今年は上がったのか、下がった

のか。これも今年を占う目安になる。

第 七福神オリエンテーリング大会



青梅レクリエーション研究会

大会コントロールカード

七福神スタンプが通過証明

第23回七福神オリエンテーリング大会(上位)

1	山本真司	1:12:33
2	山崎直一	1:13:19
3	市川幸次	1:19:42
4	太田宏樹	1:19:50
5	山田一善	1:24:44
6	天野 仁	1:28:14

(木村佳司)

2007年全日本リレー大会情報にむけて 加賀海岸ふるさとの森植樹祭

加賀市の「第8回ふるさとの森づくり植樹祭」が2006年10月28日、加賀海岸自然休養林内三明国有林で開かれ、市内外から参加したボランティア約千人が約1万本の苗木を植樹した。

同国有林ではマツクイムシによる松枯れ被害が進んでおり、タブノキ、スジダイなど10種類の広葉樹を植栽することで森の再生が期待されている。

今回で三カ年計画の運動が終了、同国有林に計3万本が植樹されたことになる。特に2007年10月には「第16回全日本リレー」が加賀海岸で開催され、大会に向けて実行委員会が準備に入っている。

県OL協会では、今年も会員の方々にご協力をお願いかけ三年連続で植樹祭に参加していただき、ありがとうございました。

(OLいしかわ No.92 2006年11月より)